

平成23年3月11日に東日本を直撃したマグニチュード9.0の大地震とそれに伴う巨大津波、その後断続的に発生した余震によって、多くの尊い命と財産が奪われました。

東海・東南海・南海三連動地震の発生も危惧されているこの地域にとって、被害を最小限にとどめ、被害の拡大を防止するためには、家庭においても自ら予防措置を講じ、震災時にも落ち着いて適切な行動がとれるようにする必要があります。

## 家族防災会議の開催

災害が起きた時に被害を小さくするには、日頃の備えが大切です。家族防災会議を開いて話し合っておきましょう。

- 家の中や屋外の危険箇所の確認
- 自宅の耐震化や家具の固定
- 避難所、避難経路
- 家族の連絡方法
- 家族の役割分担



## 家族の連絡方法

災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話の「災害用伝言版サービス」、パソコン（インターネット）の「災害用ブロードバンド伝言板（web171）」の利用方法を確認しましょう。

### 【災害用伝言ダイヤル（171）体験利用日】

- 毎月1日及び15日 00:00~24:00
- 正月三が日（1月1日00:00~1月3日24:00）
- 防災週間（8月30日9:00~9月5日17:00）
- 防災とボランティア週間（1月15日9:00~1月21日17:00）

## 家の危険箇所を確認

地震が起きると、倒れた家具や落ちてきた物だけがをすることも考えられます。また倒れた家具は、外へ逃げるときの障害にもなります。こうした被害は、家具を固定したり、家具の上に物を置かないなど、ちょっとした工夫で防げます。家の中をチェックし、危険な箇所があれば安全対策をとっておきましょう。

- 家具等の配置や転倒・落下防止
- 家の耐震状況の確認
- ガラスの飛散防止
- ブロック塀の転倒防止



## 非常持出品・備蓄品の用意

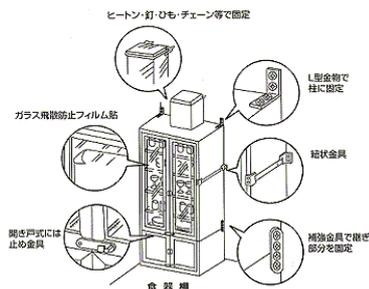
備蓄品として、7日分程度の飲料水、食料を用意しましょう。また、非常持出品として3日分を日頃から準備し、すぐに取り出せる場所に保管しておきましょう。

✓非常持出品・備蓄品 チェックリスト 非常持出品:3日分 備蓄品:7日分 いつでも持ち出せるようにしておきましょう。

防災用品	貴重品	医療用品	便利用品
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ ヘルメット・防災ずきんなど ロープ ハール ゾウキリ工具 ハンマー 防じんマスク バケツ	<input type="checkbox"/> 現金（小銭も必要） 預貯金通帳の写し* 健康保険証・免許証の写し* 有価証券の写し* カード類 証明・切取など *印類は、もともとを、複製する時に、※印が押入れは貴重品を持ち出さず。	<input type="checkbox"/> 三角せん 包帯・ガーゼ ばんそうこう 消毒薬 救急箱 常備薬 ティッシュペーパー ウェットティッシュ	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ ガムテープ 筆記用具 新聞紙 トイレシートペーパー 携帯トイレ ゴミ手袋 ゴミ袋
食料品	衣料品	燃料・照明	その他
<input type="checkbox"/> 飲料水（1人1日最低3ℓ必要） 非常食 はし・スプーン 缶切り 紙コップ・紙皿 調味料	<input type="checkbox"/> 下着 衣類 雨具 毛布 寝袋 タオル（大小2種類）	<input type="checkbox"/> ローソク マッチライター キャンプ用ランタン 懐中電灯（電池含む） カセットコンロ （予備電池含む）	<input type="checkbox"/> 乾ミルク・ほ乳瓶 紙おむつ 生理用品など （その他必要なもの）

## 家具の転倒防止対策

阪神・淡路大震災では、倒れてきた家具に押しつぶされたり、割れたガラスでケガをした人がたくさんいました。建物が無事でも家具が転倒すると、ケガをしたり、室内が散乱状態のため火災からの避難が遅れてしまうなど、被害が大きくなることも想定されます。家具の転倒防止対策を専用の器具などを用いてしっかりと行いましょう。



## 我が家の耐震対策

自宅の耐震改修は大切な命や財産を守る第一歩です。助成制度などを利用して家の耐震化を図りましょう。

＜本市の助成制度＞

### ●木造住宅無料耐震診断

昭和56年5月31日以前に着工された木造住宅が対象

### ●木造住宅耐震改修助成

工事費の1/2以内で上限90万円まで助成など

※非木造住宅についても助成制度があります。詳しくは下記までお問い合わせください。

【問合せ先】住宅都市局耐震化支援室

※市外にお住まいの方は、各市町村の担当窓口にお問い合わせください。